

文部省特選
(高校向)

いつの日か あなたも

母となる日のために

- ☐ 協力 日本視聴覚教育協会
- ☐ 製作 桜 映 画 社
- ☐ 対 象 高校生／未婚女性
- ☐ 用 途 家庭一般／保育／
小児保健／保健体
育／母子看護

□利用方法

- 上記の教材として
- 「親と子のための
家庭教育」等社会
教育の教材として

16ミリカラー21分
140,000円

教育映画祭優秀作品賞

□すいせんの言葉

文部省初等中等教育局
職業教育課教科調査官

津止登喜江

「家庭一般」の保育領域の学習では、子供の健全な成長を図る家庭及び親の役割の重要性を認識させるとともに、特に母性の健康が子供の成長発達に重要なかわりをもつことを理解させ、将来親となるものとしての自覚と、自らの健康を管理する実践の態度の育成を目指しています。そのために、母性の健康に関しては、妊娠、分娩の生理の正しい知識を指導する必要があります。この教材映画は、以上のねらいを達成するために内容が構成され、受精、妊娠の成立から分娩に至る胎児の発達、人間誕生の瞬間、母と子のつながり、そしてこれらにかかわる思春期の問題など、家庭科教育の視点から大変よくまとまっています。また、「保育」、「小児保健」などの科目やホームルームなどでの教材としても十分活用される内容を含んでいますので、広く利

用されることを期待しています。

と思います。

東京都立母子保健院院長 医博 二木 武

まず産院での実際の分娩場面から始まります。出産の尊厳や感動が実にきれいにいやみなく表現されているのにまず感心させられます。これにつづく母と子の対面も感動的です。これらのブローグの後、「女性の身体の変化」、「男性性器」、「受精と妊娠」、「妊娠中の母体と胎児の発育」と科学的な描写が淡々とつづきます。これらは単なる冷い事実の羅列でなく、例えば受精の顕微鏡写真など生命の神秘性や尊厳がよく出ていてそれ自体が感動的でかつ美的な感じで終始しています。

一般に性教育映画は冷い「性器教育」になりがちですが本映画はきれいで正確に表現されているのが特徴で一見後は一種のすがすがしさを覚えます。

高校の教材用としておすすめしたい

東京都教育委員会指導主事 桜井純子

保育の学習では、「生命の誕生が大切にされなくてはならない」ということを、正しく理解させることが大切です。

この映画は、「受精から誕生まで」を単なる知識として扱うことなく、受精以前の段階までさかのぼって取りあげ、人が人愛することの素晴らしさや神秘さを訴えています。更に、健康な生活をおくることが、将来の生命に対する責任であることを生徒たちに自覚させることをねらって製作されたものです。

従来、指導しにくかった分野を、視聴覚教材の特性を最大限に發揮して、生徒たちの生活と結び付けてとらえていますので学習に役立つ利用価値の高い教材といえましょう。

製 作

株式会社 桜映画社 東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビルTEL.(342)5768

配 給



■解説

高校生時代は、身体が女性として成熟していく、最も充実した発達期です。ところが中には、身体の変化について無自覚にすごしてしまったり、健康をおろそかに考えて、無茶をしてしまったりする人も少なくありません。

この映画では、女性の身体の成長の過程や成熟のしくみ、さらに妊娠・出産のメカニズムについて、実際の出産シーンなどをまじえながら、判りやすく科学的に解説します。高校生が、やがて迎えるであろう妊娠・出産についての正しい知識を身につけると共に、今が妊娠・出産の準備を着実に進めつつある大切な時期であることを理解してもらおうとするものです。

特に、生まれてくる子の健康を大きく左右する重要な母体の健康は、すでに高校時代の生活の中で培われていること、そして、やがて生まれてくる子の健康を願う心の根底には、生命そのものの、つくしみの心があることを、画面の中から感じとっていただければと思います。

■内容

赤ちゃんが生まれてくる瞬間—その息づまる画面は、私たちに「生命の不思議さ、尊さ」を思わせずにはおきません。長い人類の歴史も、女性がこうして生命を生み育てることによって築かれてきたといえるでしょう。

プールで泳ぐ女子高校生。ついこの間までは、男の子と変らなかつたその身体が、今やまるみを

おびて、成熟した女性として完成しつつあるようです。

初潮をみたころから始まるこのような身体の変化は、第二性徴と呼ばれています。これは身体が将来母親となるための準備を始めたあらわれなのです。

この変化は卵巣から出るホルモンによってひきおこされ、生殖器官の発育など、様々な女性としての体の特徴を示してきます。

この年頃に異性への関心がめばえるのも、身体の性的成熟にともなう精神的な変化の一つといえるでしょう。

一方、男性にも変化はあらわれています。精巣では精子が作られ、それは性的興奮がおこると精液となって放出されます。これを射精と呼びます。

この精子が女性の体内に入ると、卵子と出会い結びつくと受精となります。一ヶ月に一回とび出す卵をめがけて殺到する何億という精子。それは測り知ることのできない神秘の世界です。

受精卵は内膜に着床し、ここで誕生の日まで成長を続けるのです。

胎盤で母体とつながり、そこから栄養や酸素を受けとっている胎児には、母体の健康が重要な意味を持てきます。病気や薬、タバコなどには注意が必要です。また胎児には大敵の貧血は、日ごろの食生活が影響しておくる病気ですから、若い時からの心がけが必要といえるでしょう。

いよいよ生まれる時が近づくと、胎児は子宮の下の方へおし出され、陣痛がおこってきます。生まれようとする生命誕生の闘い。新しい生命を生み出すことは、自然の摂理とはいえ、何と不思議な、そしてすばらしい営みではないでしょうか。

健康な赤ちゃんは健康な身体に宿ります。健康は何にもまして赤ちゃんへの最高の贈り物なのです。

スタッフ

製作／撮影 村山 和雄 照明 本橋 俊男
脚本／演出 瀬藤 祝 線画 平田 晴耕
解説 幸田 弘子